

勉強のやる気が出ない。

平成 30 年 10 月 11 日記

「 僕の尊敬する人

〇〇 S

＊ ＊ 中学校の 3 年間で、僕が一番尊敬する先生は、山下先生です。  
山下先生は、僕が通っている塾の先生です。先生は、勉強のやる気が出ない僕を直してくれました。僕は学校の授業中よく寝てしまい・・・」

ある年 4 月、不登校の相談で C 中学校を訪れた際、教頭先生から「これは山下先生に渡した方がいいと思ひまして」と、S 君の作文を頂いた

彼のご両親が相談に来たのは 2 年前、彼が中学 1 年の 3 月下旬だった。勉強をやらない、授業中寝てしまう、相手がイラつくことを言う。高機能自閉症のグレーゾーンとも言われた、とも言う。精神安定剤を 2 種類、精神刺激剤を服用。彼が小学校 4 年生の時採った WISC-III の結果を見せてもらった。注意記憶と処理速度が、年齢平均を下回っていた。心理テストも採った。自信と社会性、自立性の無さが目立った。

対応を始めて 1 カ月たった 5 月 3 日、塾が休みであることを利用して午後 1 時に教室に来てもらった。彼と向かい合った。「どうして勉強しないの？」と、私は彼に聞いた。彼は答えなかった。私は返事を待った。沈黙が続いた。お互いに顔を見ながらも、沈黙が続いた。

30 数分経った。私が初めて経験する沈黙のカウンセリングであった。表情に変化が現れた。「う～ん」、「うん？」。「うーん」、「え？」と、目での会話が始まった。「わからないんだよね、鉛筆を持つと、やる気が失せるんです。」遂に沈黙が解けた。「どんな気分になる？」、「すんごく嫌な気分になるんだ」、「そう？」私は、彼の前に椅子を置いて、「エンプティ・チェア (空いす)」療法を試みた。

彼の母親は彼が 5,6 歳の頃、なかなか文字や自分の名前が書けない彼を、椅子に縛り付けても書かせて覚えさせた。嫁という立場もあり、かなり焦っていたようだった。「エンプティ・チェア (空いす)」によって、5,6 歳の彼と彼の中その時のお母さんと、じっくり対話させた。45 分位も続いただろうか。

薬の影響で授業中寝てしまうこともあり、薬を変えてもらった。それまで車での通塾も渋ることがあったが、その日以来自分の足で歩いて通塾し始めた。

その後彼は、紹介した地元の専修学校を卒業し、プログラマー養成の専門学校に通い、現在プログラマーとして働いている。